

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000744		
法人名	有限会社ヘルパ-はうす		
事業所名	グループホームまぶる		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町大沢2-6-3		
自己評価作成日	平成21年9月28日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373000744&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1		
訪問調査日	平成21年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢の入居者が本心で求める生活とはなにか・・・？職員が常に探求しなければならないことだと思うが、ただの施設のPRだったりアクションにならないよう、また押しつけにならないよう援助したいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員だけでなく、家族・来訪者の目に触れる随所に「まぶるの理念」を掲示して意識付けをしている。建物全体に、木の香りと温もりがあり、各部屋には木の表札がかかっていて、自分の家で生活しているような雰囲気を感じさせる。干支をデザインした絵を利用者と職員が一緒に作って飾ったり、利用者のレベル・相性等を考えたテーブルの配置や座る席を替える等、その時々状況に合わせて工夫している。保育園児や踊りの慰問により、近所の住民と自然にふれあい、特に、子供と接することで涙を流す場面も見られたと伺い、利用者のいい刺激となっていると感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の立場に立った場合、その生活に何が望まれるのか？全職員で考え最良と思われる4項目を基本理念としています。又、毎朝理念を唱和する事で共有を意識している	開所時に作り上げた理念を全職員で共有、事業所の押し付けにならないように…を重視しながら、利用者の残存機能を活かして、その人らしい生活・生き方ができるように見守っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族、知人、運営推進会議等から情報を収集し地域の行事・活動に入居者の身体・心理・環境面から参加を検討し交流を促しています。	地域の一員として、利用者の状況をみながら、町内のイベントに積極的に参加している。参加することで情報の幅が広がり、踊り等の慰問と同時に近所の来訪者もあり、利用者と一緒に楽しく過ごし、自然に交流が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談事には常時対応している。ボランティアを通じて地域の老人会等の団体に認知症についての説明会を開催してもらえるように推進しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、活動、事業所としての様々な意向を提示し参加委員からの評価や意見には直ぐに対応しています。	場所が狭いことから限られた参加人数となっていた。その時々、事業に合わせたメンバーの参加をしていただき、双方にとって、より効果的な会議の運営となっている。家族が交替で参加することにより、情報の共有ができ、家族会のような役割も果たしている。	11月16日に、老人クラブと「認知症の集い」を予定している。住民に理解してもらうためにもいい機会なので、継続してもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所としての不安や、確認事項、又は予測される問題(家族と事業所の信頼関係等)など、必要に応じて相談しているし、何が起きても早期に解決できるように連携している。	相談事や制度等の確認事項を、状況に応じて「電話対応・出向く・来ていただく」の方法で、気軽に行き来できるような関係になっている。外出時、用事がなくても役場に顔を出すようなこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修には毎年参加しているし、ホーム内でも勉強会を開催している。スピーチロックに関しては更なる努力を感じるも、フィジカルロックやドラックロックについては一切行っておりません。	利用者の動きに合わせて例えば、「付いて行く・危険を伴う場合は動かないように声をかける・車椅子でのベルトをしない」を徹底。外部研修会へ参加、事業所内でも勉強会をして身体拘束のないケアに努めている。尚、良いと思うことは他施設へも勧めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法について外部研修でもホーム内でも中々研修する機会はないが、職員同士が助け合うことで利用者に対してストレスを溜めないような接し方をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修についても管理者や計画作成担当者の参加のみで全職員が学ぶ機会は少ない。又、介護の職域を越えているとの意向も聞かれるが、相談事があれば窓口を紹介するなどの対応は出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約において、契約事項のみならず家族の不安、介護する側の不安、考え、予測される状況など話し合い納得の上で締結しています。解約においても出来る限りの助言と援助窓口の紹介等で対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約締結時に苦情・相談の窓口を紹介しているし、年度初めに利用者、家族にアンケートをお願いしている。ホーム内には面会時に感じた事を書き込んでもらう投書箱も設置しています。	相談窓口の紹介や事業所内に投書箱を設置し、声を汲み取るようにしている。利用者や家族からのアンケート・運営会議での声・面会時の要望を無視することなく、可能な範囲で反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見・提案は、まず管理者が聞きとり、必要に応じて代表に報告している。購入する事で解決できる事等には即日対応している。	運営に関しての意見・要望は、気軽に話せる雰囲気・関係になっている。物品の要求が多く、すぐ対応できることもあるが、必要に応じて管理者から代表へ、と段階的に報告しながら進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報酬や経営状態に応じて左右されることで簡単に環境や条件を整備できるものではない！入ってくる金があれば職員に還元しようとする気持ちは何処の代表者より強く持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修に関しては年度計画で立案し実施している。外部研修についても職員の得意、不得意の分野を総合的に判断し研修への参加を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH協会のみならず、沿岸地区のGH協会の交流が盛んになり職員は刺激されている。また山田町の同業者とはお互いの運営推進会議に参加し合い助言しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談をする事で不安や相談に対応しています。しかしながら本人の口から出る言葉は入居拒否が多いのが現状です。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みがあった段階で家族や居宅の担当ケアマネから情報聞き、自宅と施設の違い・家族と他人へ対する違い等、それまでの入居者の例で話をし不安や困っている事への助言をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時点で客観的に話せるよう、また家族や本人が何を優先で必要としているか知るよう努め、GHだけではなく、介護保険全体の説明や居宅サービス・施設サービスの説明等、必要に応じて対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通して入居者から”知恵袋”を引き出すよう声掛けを行っています。会話の中から楽しみや昔の出来事を聞いたり、作業でも年寄りのやり方から学ぶように接しています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況に応じて、家族にはホームへの出入りを自由に・・・と話しているし何時何時の外出、外泊も出来るよう話し関わってもらえるようにしている。当然、行事参加や周辺症状悪化時の話し合いもしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	懐かしい場所、気になる場所、行きたい場所を探りながら遠足やドライブの行き先としている。希望があれば個々に対応する事もしており、これまでにはお寺での祈禱や神社参拝等実施してきた。可能であれば援助出来る体制でいる。	元気な頃に行ったところや、馴染みの場所が多く、個々の希望を聞きながら出かけるようにしている。夏の選挙では、「投票に行きたい」と希望され、それには事業所は応じることができなかったが、ご家族のご協力のもと、希望を叶えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立気味の入居者には趣味(大正琴等)を披露してもらい機会を設ける事で関わりを増やし、その人に興味をもってもらよう支援している。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族が困らないよう窓口の紹介、必要書類の作成、施設とのやり取り等、必要な助言や相談事には最大限支援している。今までの例では家族が行事に参加してくれたり、ホームの様子を見に来てくれた経緯があります。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1のMEETINGで、“その人が気にしていること”を職員で話し合い、対応するようにしている。年度初めには本人から職員が個々にアンケートを聞き取り意向に沿うよう援助している。	事業所独自のカンファレンスシートを使って、本人が気にしていること・職員が気にしていることを話し合い、短期間で変化する利用者の現状に合った支援ができるようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時点で生活歴や経緯、生活の中で出来ること等を聞き取り把握に努めている。又、必要に応じて居宅時の担当ケアマネより情報提供してもらい援助に役立っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	押しつけにならない日々の過ごし方を心身状態も考慮しながら職員は意識している。日々の生活から出来ること出来ないこと、その時のやる気等の気持ちを汲み取り対応している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が気にしていること、職員が気になることを月1のMEETINGではなしあい、生命維持・疼痛の軽減・本人希望・家族希望なもので内容を精査し、実施できるもの解決可能なもの計画としている。	本人が気にしていること・職員が気にしていることを話し合い、利用者の現状に合った介護計画を作成している。個々の記録の最初のページに情報サービス提供書を綴じ込んで、流れが見え検討しやすいように工夫している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録があり日々の様子を記入している。又月1のMEETINGや、朝夕の申し送りで利用者個々の情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施にいたっておりません。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要請時の協力を文書にてお願いしているし、生活の様子を知っていただくために広報を各機関に配付しています。又、運営推進会議にはテーマ事に消防職員や保育園職員等に参加していただき助言を頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視しながら受診援助をおこない、状況の変化に応じて必要と思われる医療機関の紹介など了解を頂きながら適宜的確に実施しているつもりです。	利用者や家族の希望を重視しながら、受診には、職員が付き添い、安心して治療を受けられるように支援している。協力病院の内科医が不在となり心配されたが、逆に医療機関の方から、いろいろ配慮してもらい助かっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置していないし、訪問看護と提携している訳でもありません。入居者の特変時には即協力病院を受診し、必要であれば事前に看護師に連絡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に書類での情報交換がある。必要であれば話し合いを設けてもらい、病院側の事情とホームの事情を話し合う機会があり可能な場合は早期の退院に繋がっています。開所からのやり取りで病院側はホームを理解した対応をしてくれています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の話し合いを契約時点からしているし、その状況に応じて何度でも話す機会を設けている。GHの環境で、設備で対応可能なうちは出来る限りの援助を約束している。	家族には、利用開始時の契約時点で設備・医療器具等、限度がある旨を説明して理解してもらっている。全職員が、利用者・家族の思いを汲んで、限られた状況の中、できるだけ援助していきたいという思いを強く持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年の年度計画にAED併用した心肺蘇生法の訓練と誤嚥・骨折・火傷等の応急処置を組み入れて実施している。消防署職員を招聘して勉強会をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域には有事の際の協力を文書にておねがいしている。年に3回の避難訓練を実施し最小限の職員数で如何に避難完了出来るか訓練している。	地域の消防団には文書で協力を依頼し、年3回避難訓練を実施、そのうち1回は消防署に参加していただき、いろいろ指導を受けながら行っている。災害時の連絡網も具体的で分かり易い表示になっている。	災害対策は、永遠の課題かもしれません。「火災・土砂崩れが特に心配」と話されていたので、訓練のときから地域の消防団に参加していただくよう働きかけてほしい。

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理解してもらうために単語や方言、地域の言葉で声掛けを実施している。生活歴により不快な思いをさせないよう個々が好む言葉の掛け方を使い分けています。	一人ひとりの生活歴を考慮しながら、その時々に応じた言葉のかけ方、方言・敬語もまじえて、不快にさせないよう言葉を選んで対応している。関わりの中で、利用者の笑顔に元気をもらい、やりがいを感じている。	利用者は、気さくに話しかけてきて、明るく生き生きとした艶っぽい顔をしていました。職員の優しい関わりの成果と思われます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何であれ押しつけにならないよう・・を意識し、本人の了解のもと支援しているつもりです。機能低下に繋がる希望(横になりたい等)でも真摯に受け止め本人にとって何がいいのか考えながら働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのアクションやPR、入居者への押しつけにならないよう気を配って援助しているが、その時本人が望まなくても、事後の感想が明らかに「よかった」と予測されるものには若干の強制力を持っても援助します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望がある場合対応しているのが現状です。しかしながら行事や外出時は、いつもと違う服装を選んだりするよう促しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士は何を食べたいか常に入居者から聞き取るようしている。土曜日の昼食はその日に決めることが多く、意見や希望がある場合は毎週同じ昼食になる場合もあります。9名の食の興味を引き出す為、より多くの意見を聞くよう努力しています。	利用者の好みや希望も取り入れ、栄養のことを考えながら、食事が楽しめるようにと献立に配慮している。常時、4～5人が職員と一緒に調理を手伝い、得意分野を活かすことができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量が把握できるよう記録しています。口腔内や体調、摂取状況の変化に応じて刻んだり、トビを付けたり、ゼリーやプリン等を活用して個々の状態に合うよう援助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きや義歯洗浄の促し、介助を実施しています。また毎週木曜日を薬剤での義歯洗浄日と決めて対応しています。身体や精神状況に応じて個々に対応しています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を訴えられない方には時間を決めて誘導をしたり、落ち着きのない行動や言動、表情等から排泄のサインを見落とさないよう努めています。	利用者個々の排泄パターンや状態に応じて、リハビリパンツの着用、動きや言動で排泄サインを読み取りトイレに誘導したり、夜間は、ポータブルトイレの使用などと自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に頼るだけでなく、水分量の確保と排便の手助けとなるような食物(人参ゼリー)を作って多用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	見守り程度で入浴可能な方には希望に応じて何時何時の入浴も可能に準備をいたします。現在は1週間のどの曜日にも対応可能だが、13時から15時の時間帯が多いです。	希望も取り入れ、何時でも入浴できるようにしている。週2～3回／一人は入浴できているが、時には拒否されることもあり、入浴後の「気持ちよかった」という言葉を見逃さずタイミング良く促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドメイク時には希望に沿うよう整え、寝具類の持ち込みも自由に行っています。各居室にテレビ配線を設置し迷惑にならない程度で、眠くなるまでの鑑賞を許可しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たな服薬に関しては状態の変化、些細な変化にも留意するよう努め、個々の薬剤の副作用、用法や用量について直ぐに確認が取れるよう個別のファイルに綴じてあります。覚えることは誤認に繋がるため常に確認する事を指導しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大正琴だったり、唄う事だったり・・・と本人の能力を發揮してもらっている。家事や作業も無理強いせず、職員がする事で入居者からの「手伝うから・・・」を引き出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があって職員で対応できないものには家族の協力を頂き、突発的な希望にも可能な限り対応するよう努めています	年齢的なこともあって、レベル低下により要望は減ってきている。可能な範囲で外出を促し、ドライブのついでに買い物をするなど楽しめるように工夫しながら支援している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて対応可能だが、無理に金銭を持たせても共同生活ではトラブルの元であることも考慮しておかなければならない。金銭に執着がなくなり、口にすることも殆ど無くなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が集まるフロアに子機を設置。希望に応じて職員がダイヤルしたり代わりに話を聞いたり・と支援している。入居者の申し出と、管理者の判断にて手紙のやり取りには代筆で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔であることを第一に、入居者が安心したり、自分の作成した作品を眺めて自信を持てるよう装飾しています。季節感も生花や暖炉、薪などで感じ取れていると思います。	高い天井、明るく、建物・戸棚等から木の香りと温もりが伝わってくる。利用者は、どこに居ても見守られている安心感、職員にとっては、目が行き届く空間になっている。季節の花や皆で作った装飾品、薪や暖炉にも季節感や生活感を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	対人関係に疲れたり、静かに過ごしたい希望などに対応して談話室やテラス、中庭スペースにテーブル、イスが設置してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時点で持ち込み可能な部品のリストを渡し、本人の好きなように、くつろげるように部屋作りするよう助言している。	部屋には、小物類の置物や飾り物がある程度で、馴染みのものの持込は少なく、むしろ、整然としていて安全で動きやすいスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「便所」と表示し、入居部屋の玄関となる入り口には個々の姓を表示し分かり易くしている。又、全館段差なく、手摺りが設置してありますし、クッションフロアにて転倒時のダメージを最小限に食い止めています。		